

彙報

○平成二十一年度講義題目

(大学院)

日本文学研究の方法(1)(2)

高橋教授・塩村教授

阿部教授・坪井教授

大井田准教授

高橋教授

高橋教授

塩村教授

甘露純規講師(非)

古代和歌文学表現論―和歌・歌語り・源氏物語

久富木原玲講師(非)

三十六歌仙を読む(1)(2)

徒然草研究(1)(2)

中世人の連想の世界(1)(2)

日本書誌学研究(1)(2)

古代日本語の研究

万葉集を読む

明治期文典の研究

〔古今集遠鏡〕研究A・B

宮地准教授

釘貫教授

釘貫教授

釘貫教授・齋藤教授

日本語学概論A・B

文法史研究

言語変化と方言分布

日本語文法研究の諸問題A・B

宮地准教授

日本精神史―中世の世界像

阿部教授

日本精神史―天皇と芸能

阿部教授

宗教テクスト学の世界

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習―虫干法会

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習―花祭り

阿部教授

太子伝研究―太子絵伝絵解き実習

阿部教授

太子伝研究―太子伝を読む

阿部教授

中世宗教テクスト研究の可能性―無住をめぐって

阿部教授

日本語文化入門(1)(2)

阿部教授

日本語文化の諸問題(1)(2)

齋藤教授

近代翻訳語の研究(1)(2)

齋藤教授

王朝物語の諸問題(1)(2)

齋藤教授

王朝物語の諸問題(1)(2)

大井田准教授

王朝文学演習(1)(2)

大井田准教授

占領期文学研究 1949-1950

坪井教授

翻訳と近代日本文化

坪井教授

出版文化と日本語文学圈(1)(2) 日比准教授

近代と近代批判の諸相(1)(2) 坪井教授他

日本文化の基層(1)(2) 齋藤教授

大井田准教授

日比准教授

日本語論文作成法A・B 宮地准教授

齋藤教授他

視覚文化理論研究 坪井教授他

宗教テキスト学実習―大須文庫調査研究

阿部教授

テキスト布置解釈学各論Ⅲ

釘貫教授他

テキスト布置解釈学各論Ⅳ

宮地准教授他

テキスト布置解釈学各論Ⅴ

高橋教授

テキスト布置解釈学各論Ⅵ

阿部教授他

〈学部〉

釘貫教授他

日本文学研究の諸問題(1)(2) 高橋教授

日本書誌学研究(1)(2) 塩村教授

西鶴研究(1)(2) 塩村教授

明治の小説と出版文化 甘露純規講師(非)

古代和歌文学表現論―和歌・歌語り・源氏物語 久富木原玲講師(非)

徒然草研究(1)(2) 塩村教授

中世人の連想の世界(1)(2) 塩村教授

古代日本語の研究 釘貫教授

日本語学概論A・B 宮地准教授

文法史研究 矢島正浩講師(非)

言語変化と方言分布 大西拓一郎講師(非)

万葉集を読む 釘貫教授

明治期文典の研究 釘貫教授

『古今集遠鏡』研究A・B 宮地准教授

日本語文法研究の諸問題A・B 宮地准教授

日本語研究上の諸問題A・B 釘貫教授・齋藤教授

日本精神史―中世の世界像 宮地准教授

日本精神史―天皇と芸能 阿部教授

日本精神史―天皇后芸能 阿部教授

儀礼とテキスト・フィールドワーク演習―虫干法会 阿部教授

儀礼とテキスト・フィールドワーク演習―花祭り 阿部教授

太子伝を読む―絵解き実習 阿部教授

太子伝を読む―『正法輪蔵』研究 阿部教授

日本語文化入門Ⅰ・Ⅱ 齋藤教授

王朝物語の諸問題(1)(2) 大井田准教授

近現代日本のトランスナショナル文学 日比准教授

三十六歌仙を読む(1)(2) 高橋教授

高橋教授

古領期文学研究 1949-1950 坪井教授

近代日本の(仕事)の風景—文学作品から読む

日比准教授

○平成二十二年度春季大会

日時 七月十日(土)午後二時—午後五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

シンポジウム『平安朝文学の古筆と写本』

パネリスト

田中 登(関西大学教授)

「文学研究における古筆の意義 付、源氏集の

種々相」

加藤洋介(大阪大学准教授)

「定家本源氏物語研究の可能性」

池田和臣(中央大学教授)

「古筆切の文学史的可能性—竹取・巢守など—」

司会・コーディネーター 高橋 亨

総会

懇親会 午後六時—八時 グランビアット山手通店

○平成二十一年度卒業論文

『源氏物語』横笛の恋愛場面について 西川佳織

『男色大鑑』研究 江口亜由美

明石入道をめぐる「すぎ」

蜻蛉日記における兼家和歌

『古今和歌集』における「萩」

『今昔物語集』の「物伝ヒ」

俳諧類船集における「童」について

『伊勢物語』における「友だち」論

上田敏「海潮音」考

森岡外「雁」考

『源氏物語』における月

存在動詞「あり」と接続助詞「つ」の接続について

接続助詞ケドの文末用法

「トキ」を含む時間表現形式について

「タイ」構文における価値判断としての用法

古代日本語における「動詞連用形マテ」について

岡部陽子

河井七重

佐々木祐

澤井祐哉

鈴木智美

横地聖也

渡邊友香里

澤村有希

鈴木彩加

石川絵理

岩田雅史

可児和美

島崎友里

松井智美

○平成二十一年度修士論文

『温泉文学』としての『雪国』と雑誌『温泉』

—川端文学における「温泉場」という装置—

延慶本『平家物語』における女人往生と救済

李 明喜
横山知恵

高等学校における「二重尊敬」の教授法と

文学作品の実相

杉本雅子

古代日本語における動詞連接の研究

阿部 裕

18世紀日本における外国語音の仮名表記法

—「全一道人」の「ツ」表記をめぐって—

李 在鏞

二格名詞句と数量詞遊離の關係について

郭 一穎

古代日本語における動詞語尾フについて

現代語タケにおける程度・限度・とりたての用法について

張 培

○平成二十一年四月から平成二十二年三月、次の方々が
博士学位を取得された。

〈課程博士〉

西行説話の研究

蔡 佩青

横光利一作品研究

中川智寛

『源氏物語』の空間構築と光表現

山本ゆかり

源氏物語論—表現方法としての〈和歌〉—

亀田夕佳

『源氏物語』の家と筋

吉村悠子

明治期における漢語の意味変化とその影響

李 芝賢

〈論文博士〉

『源氏物語』の表現—物語と歴史叙述

辻 和良

○本年四月一日現在、日本文学研究室には、学部二年生
十名、三年生九名、四年生十名、大学院前期課程六名、
後期課程十四名の計四十九名（内、留学生六名）、日
本語学研究室には、学部二年生八名、三年生五名、四
年生十四名、大学院前期課程八名、後期課程十二名、
研究生・聴講生二名の計四十九名（内、留学生十三名）
が在籍している。

○平成二十二年度秋季研究発表会

日時 十二月十一日（土）午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

内容 『新撰字鏡』編纂に関する序文の検討

永井圭司

「鬼貫の俳諧と二条家流歌学」

箕田将樹

「寺院における稚児物語—お伽草子『花みつ』

月みつ』から—」
末松美咲

懇親会 午後六時～ グランビアット山手通店

○本誌への投稿をお待ちしています。投稿規定は次の通
りです。

*投稿資格 本学会員

*枚数 出来上がり原稿にて一四頁（縦書きは

二十五字×二十二行×二段組／頁、横

書きは三十七字×三十行/頁) 以内を厳守。但、審査の過程で加筆の必要が生じ、結果として掲載時に一四頁を超過する場合もある。

*原則としてメール添付による入稿とする。ただし、メール添付に不都合がある場合、フロッピーディスク等の電子媒体による入稿も可とする。

手書き原稿の場合は事務局にご相談下さい。

*原稿の採否は編集委員の採否を経て運営委員会が決定する。

*原稿の採否の問い合わせには応じない。

*投稿原稿は返却しない。

*投稿の際、原本一部、コピー二部、計三部それぞれに要旨(二百字程度)を添えて提出のこと。

(入稿規定)

一、データはワード文書もしくはテキストファイル形式を原則とする。

二、論文と要旨は別ファイルとすること。

三、入稿に際しては、メール添付の論文ファイル・要旨ファイルのほか、必ずプリントアウトした原稿を三部提出すること。特殊文字・罫線等や割付けは、この原稿にしたがって版を組む。

四、採用の場合、校正編集補助費として、原稿一本に

つき五千円徴収いたします。

五、審査はプリントアウトした完成原稿によつて行う。付記、次号(百四号)の締切は二〇一一年五月一二日です。

○編集委員(五十音順)

阿部泰郎・大井田晴彦・釘貫 亨・齋藤文俊・
榊原千鶴・塩村 耕・高橋 亨・坪井秀人・
日比嘉高・宮地朝子

○本号の刊行に際しての実務担当委員は次の方々です。

阿部 裕・鹿谷祐子・高橋芽衣子・玉田沙織・
民家春菜・眞野道子・川辺瑞絵